

7月例会「めぐり逢わせのお弁当」(インド映画)

市民会館での高畑勲監督関連イベント参加報告

7月4日に加古川市民会館の夏季大学で、スタジオジブリの**高畑勲監督**の講演会がありました。さらに、翌日には、高畑監督の『かぐや姫の物語』と『柳川堀割物語』の映画上映会があり、監督の舞台あいさつがありました。

加古川シネマクラブの関係者は、地元の映画団体として、高畑監督を鶴林寺など加古川地域などの文化施設や名所の案内、昼食と夕食のお店を案内する役割を担いました。

とくに姫路市香寺の**日本玩具博物館**では、高畑監督夫妻がこの博物館とその展示をたいへん感心していたことが印象に残りました。

今回のニュースは、高畑監督加古川案内記を中心とします。

例会のお知らせ

■名称／第79回例会『めぐり逢わせのお弁当』

■日時／7月23(木) ①PM 2:00ー、②PM 4:20ー、

③ PM 6:40ー

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／めぐり逢わせのお弁当 (原題/Dabba)

■監督／リテーシュ・パトラ

■出演／イルファン・カーン、ニムラト・カウル、ナワーズディーン・シッディーキー

■データ／2013年、インド、105分、ドラマ

■解説／インド映画らしくない映画。インド映画のイメージは、「正義の味方のちょっと太ったモテモテのヒーローが、カッコ良く登場し、歌って踊って悪者を退治し、ヒロインの美女を助け出し、ハッピーエンドの



歌と踊りでお終い」。こんな風に思っていたのですが、この映画は、そうではない。

女と男の、ちょっとした逢いと、全編を通して偶然の糸で結びつながっている淡いラブロマンスなので、乞うご期待。

■物語／インド・ムンバイでは、お昼どきともなると、ダブバーワラー(弁当配達人)がオフィス街で慌ただしくお弁当を配って歩く。その中のひとつ、主婦イラが夫の愛情を取り戻すために腕を振った4段重ねのお弁当が、なぜか、早期退職を控えた男やもめのサージャンの元に届けられた。神様の悪戯か、天の啓示か。偶然の誤配送がめぐり逢わせた女と男。イラは空っぽのお弁当箱に飲み、サージャンは手料理の味に驚きを感じる。だが夫の反応はいつもと同じ。不審に思ったイラは、翌日のお弁当に手紙を忍ばせる……。

(作品ホームページ抜粋)

『柳川掘割物語』を鑑賞して

1987年公開のこの作品、実は全く知りませんでした。なので、ただ純粋に楽しみにしておりました。ある会員さんからは絶賛の声が、また「ドキュメンタリー映画ということ念頭に」「長いから心して」等々の声も聞いておりました。高畑監督のありがたい舞台あいさつを聞き、さあ、鑑賞。長かった～2時間45分。しかし、1980年代後半の福岡県柳川市の水路網の再生を、あれだけ丁寧に、また、掘割の成り立ちと仕組みをあれだけわかりやすく描くには、必要な長さだったので！皆さまも機会が訪ればぜひご鑑賞ください！人と水との暮らし、水の循環、人が自然と共生するためにしなければいけないこと、この映画はわかりやすく教えてくれています。(せん)

高畑監督と播州ツアー!!

7月3日 夏季大学の講師として加古川に来られた高畑監督ご夫妻。加古川シネマクラブの運営委員と姫路城、日本玩具博物館、小野市の極楽山浄土寺を見学されました。この日、監督はそれぞれの所で大変興味を示され、色々と質問を投げかけ、話を丁寧に聞き及んでいた姿が印象的でした。

7月4日 講演が始まる日の朝。曇り空ながら石の宝殿と生石神社に出かけました。ご夫妻は岩壁に囲われている神社と巨石、そして山の上から見える風景をととても気に入られた様子でした。その後、高砂神社へ。この日のお昼は加古川名物「かつめし」を食べていただきました。

7月5日。朝から鶴林寺を訪問され、映画上映の前後に舞台あいさつをし、帰る前に多木化学のあかがね御殿を見学。

監督は、3日間バイタリティーあふれ、映画作製の話、物事の見方などツアーの中で熱く語られました。監督のあたたかい人柄に触れ、私たち運営委員一同大感激です。(山本芳明)



日本玩具博物館で

前回例会の報告

5月13日の例会は、石井裕也監督作品『ぼくたちの家族』を鑑賞しました。母親の余命1週間という突然の宣告をきっかけに崩壊し始めた家族が、ぎりぎりのところで踏み止まり奇跡を信じて奔走する姿を丁寧に描いた作品で、参加者からは評判が良かった。

参加会員112人、明石シネマクラブから10人参加。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『鉄くず拾いの物語』

(2013年、ボスニア・ヘルツェゴビナ・フランス・スロベニア合作、112分)

■日時／8月18日(火) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■解説／2011年末、ロマ民族の女性セナダが保険証を持っていないために手術を受けられないという新聞記事を見たタノビッチ監督が、その現状を世間に訴えようと、演技経験のない当事者たちを主演に迎え、わずか9日間で撮り上げた。13年・第63回ベルリン国際映画祭では、セナダの夫で本人役を演じたナジフ・ムジチが主演男優賞に輝いたほか、審査員特別賞、エキシユメニカル賞特別賞も受賞した。

■監督・脚本／ダニス・タノビッチ

■出演／セナダ・アリマノビッチ、ナジフ・ムジチ

■受付／会場受付で、①加古川の会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■目的／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 151人(5月13日現在)